

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-193219

(43)公開日 平成6年(1994)7月12日

(51)Int.Cl.⁵

E 0 4 D 13/06

識別記号

1 0 6 C 7416-2E

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平4-342013

(22)出願日 平成4年(1992)12月22日

(71)出願人 000002174

積水化学工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72)発明者 酒井 秀隆

大阪府高槻市郡家新町15-20

(72)発明者 北川 雅彦

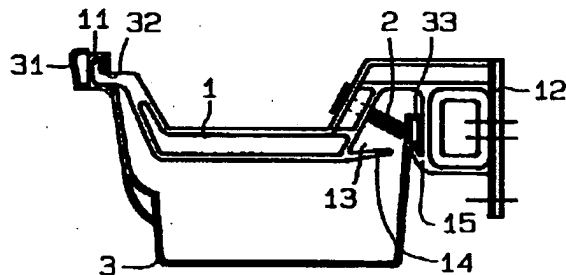
京都府京都市下京区七条大宮東入ル大工町
118

(54)【発明の名称】 軒樋支持具

(57)【要約】

【目的】 軒樋内が豪雨により満水になるとか、或いは、永年の使用により、屋根の砂が、軒樋内に累積される結果、満砂になるとかの場合には、その荷重により軒樋の他方の耳が軒樋の内方に倒れることにより、軒樋の底部が下方に大きく湾曲し、その結果、他方の耳が軒樋耳保持凸片の間から脱落したりする恐れのない軒樋支持具を提供するにある。

【構成】 軒樋3を上側から保持する支持具本体1の端部に下方に開口する溝形の軒樋耳保持部13が設けられ、溝形の軒樋耳保持部13の入口部の両側壁に上向きの軒樋耳保持凸片14、15が突設された軒樋支持具であって、溝形の軒樋耳保持部13の入口部の両側壁のうちの内側側壁において軒樋耳保持凸片14、15の上方に軒樋耳移動防止突起2が突設されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 軒樋を上側から保持する支持具本体の端部に下方に開口する溝形の軒樋耳保持部が設けられ、溝形の軒樋耳保持部の入口部の両側壁に上向きの軒樋耳保持凸片が突設された軒樋支持具であって、溝形の軒樋耳保持部の入口部の両側壁のうちの内側側壁において軒樋耳保持凸片の上方に軒樋耳移動防止突起が突設されていることを特徴とする軒樋支持具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、軒先に取付けられ、軒樋を上側から保持する軒樋支持具に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、図5に示すように、軒樋イを上側から保持する支持具本体口の端部付近に、下方に開口する溝形の軒樋耳保持部ハが設けられ、溝形の軒樋耳保持部ハの入口部の両側壁に上向きの軒樋耳保持凸片ニ、ホが突設された軒樋支持具が知られている。

【0003】この軒樋支持具においては、支持具本体口の端部に設けられた取付部へを図示しない軒先に取付け、軒樋イの一方の耳トの内方に開口されている開口部チ内に支持具本体口の端部に設けられた上向き突起リを挿入して、軒樋イの一方の耳トを保持すると共に、軒樋イの他方の耳ヌを支持具本体口の端部付近の溝形の軒樋耳保持部ハの軒樋耳保持凸片ニ、ホの間に強引に挿入し、上向きの軒樋耳保持凸片ニ、ホを弾性変形させて軒樋イの他方の耳ヌを軒樋耳保持凸片ニ、ホの上方に挿入係止させるものである。

【0004】このように、軒樋イの他方の耳ヌを軒樋耳保持凸片ニ、ホの上方に挿入係止させた後は、軒樋イの他方の耳ヌは軒樋耳保持凸片ニ、ホ係止され、容易には軒樋耳保持凸片ニ、ホから脱落はしないものである。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記の従来の軒樋支持具においては、軒樋イ内が豪雨により満水になるとか、或いは、永年の使用により、屋根の砂が、軒樋イ内に累積される結果、満砂になるとかの場合には、その荷重により軒樋イの他方の耳ヌが軒樋耳保持部ハ内で滑って軒樋イの内方に倒れ、底部が二点鎖線で示すように下方に湾曲するのが増長され、その結果、軒樋イの軒樋耳保持凸片ニ、ホも他方の耳ヌの移動に追従して弾性変形し、甚だしいときは、他方の耳ヌが軒樋耳保持凸片ニ、ホの間から脱落する恐れもある。

【0006】本発明は、このような従来の軒樋支持具における問題点に着目してなされたものであり、その目的とするところは、従来の問題点を解決し、軒樋内が豪雨により満水になるとか、或いは、永年の使用により、屋根の砂が、軒樋内に累積される結果、満砂になるとかの場合には、その荷重により軒樋の他方の耳が軒樋の内方に倒れたり、軒樋の底部が二点鎖線で示すように下方に

大きく湾曲し、その結果、他方の耳が軒樋耳保持凸片の間から脱落したりする恐れのない軒樋支持具を提供するにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明軒樋支持具は、軒樋を上側から保持する支持具本体の端部に下方に開口する溝形の軒樋耳保持部が設けられ、溝形の軒樋耳保持部の入口部の両側壁に上向きの軒樋耳保持凸片が突設された軒樋支持具であって、溝形の軒樋耳保持部の入口部の両側壁のうちの内側側壁において軒樋耳保持凸片の上方に軒樋耳移動防止突起が突設されていることを特徴とするものであり、このような構成により、上記の課題が解決されるものである。

【0008】本発明において、支持具本体の材質としては、特に限定れるものではないが、例えば、硬質塩化ビニル樹脂、ポリエチレン、FRP、ポリカーボネイトのような合成樹脂、或いは鋼鉄、アルミニウムのような金属が使用される。

【0009】

【作用】本発明軒樋支持具においては、溝形の軒樋耳保持部の入口部の両側壁のうちの内側側壁において軒樋耳保持凸片の上方に軒樋耳移動防止突起が突設されているので、軒樋内が豪雨により満水になるとか、或いは、永年の使用により、屋根の砂が、軒樋内に累積される結果、満砂になるとかの場合には、その荷重により軒樋の他方の耳が軒樋の内方に倒れることがなく、軒樋の底部が二点鎖線で示すように下方に大きく湾曲することがなく、他方の耳が軒樋耳保持凸片の間から脱落する恐れもない。

【0010】

【実施例】次に、本発明の実施例を図面を参照しながら説明する。図1は本発明軒樋支持具の一例を示す正面図、図2は、その要部拡大正面図である。

【0011】これらの図において、1は硬質塩化ビニル樹脂製の支持具本体であり、支持具本体1の一端には、上向き突起11が突設され、他端には、取付部12が設けられ、その付近には、下方に開口する溝形の軒樋耳保持部13が設けられ、軒樋耳保持部13の入口部の両側壁に上向きの軒樋耳保持凸片14、15が一体に突設されている。

【0012】この軒樋耳保持部13の両側壁のうちの内側側壁において軒樋耳保持凸片14の上方に小ネジからなる軒樋耳移動防止突起2が突設されている。

【0013】小ネジ2は、図2に拡大して示すように、ローレット加工が周囲に施された円板状頭部21を持ち、小ネジ2の先端が軒樋耳保持部13の側壁の斜め上方から側壁に設けられたネジ孔16にねじ込まれ、軒樋耳保持部13の内方に突出されている。

【0014】この小ネジとしては、図3の一部切欠正面図に示す小ネジ2aのように、その先端に円板22aが

3

止めネジ23aにより取付けられ、円板22aが小ネジ2aの先端において、矢印wで示すように揺動できるようになっているものを使用してもよい。

【0015】〔実施例の作用〕次に、図1、2に示す本発明軒樋支持具を使用して、硬質塩化ビニル樹脂製の軒樋3を支持する態様について説明する。

【0016】本発明軒樋支持具の取付部12を図示しない建物の軒先に取付け、軒樋3の一方の耳31の内方に開口されている開口部32内に本発明軒樋支持具の支持具本体1の端部に設けられた上向き突起11を挿入し、

軒樋3の一方の耳31を保持する。
【0017】小ネジ2を若干緩めて、その先端を軒樋耳保持部13の内方において若干後退させ、軒樋3の他方の耳33を支持具本体1の端部付近の溝形の軒樋耳保持部13の軒樋耳保持凸片14、15の間に強引に挿入し、上向きの軒樋耳保持凸片14、15を弾性変形させて軒樋3の他方の耳33を軒樋耳保持凸片14、15の上方に挿入係止させ、その後、小ネジ2をねじ込み、小ネジ2の先端を挿入された軒樋3の他方の耳33に当接させる。

【0018】他方の耳33は内側から小ネジ2の先端で抑えられているので、軒樋3内が豪雨により満水になるとか、或いは、永年の使用により、屋根の砂が、軒樋3内に累積される結果、満砂になるとか場合には、その荷重により軒樋3の底部が下方に湾曲するような事態が発生しても、その結果、軒樋3の他方の耳33が軒樋3の内方に倒れたり、他方の耳33が軒樋耳保持凸片14、15の間から脱落する恐れがない。

【0019】図4は、本発明軒樋支持具の他の一例を示す要部拡大正面図であり、図4に示す本発明軒樋支持具においては、小ネジ2bの先端にコイルスプリング24bを取付けたものであり、軒樋耳保持凸片14、15の間に挿入された軒樋3の他方の耳33をコイルスプリング24bの先端が当接するようになっている。

4

【0020】図4に示す本発明軒樋支持具においては、小ネジ2bの先端にコイルスプリング24bを取付けたものであるから、図1、2に示す本発明軒樋支持具における小ネジ2のように、軒樋3の他方の耳33の軒樋耳保持凸片14、15の間の挿入にあたり、予め、小ネジ2bを緩めておく必要がない。

【0021】

【発明の効果】本発明軒樋支持具においては、溝形の軒樋耳保持部の入口部の両側壁のうちの内側側壁において軒樋耳保持凸片の上方に軒樋耳移動防止突起が突設されているので、軒樋内が豪雨により満水になるとか、或いは、永年の使用により、屋根の砂が、軒樋内に累積される結果、満砂になるとか場合には、その荷重により軒樋の他方の耳が軒樋の内方に倒れることがなく、軒樋の底部が二点鎖線で示すように下方に大きく湾曲することがなく、他方の耳が軒樋耳保持凸片の間から脱落する恐れもない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明軒樋支持具の一例を示す正面図。

20 【図2】図1に示す本発明軒樋支持具の要部拡大正面図。

【図3】小ネジの他の例を示す一部切欠正面図。

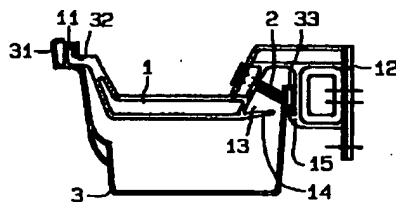
【図4】本発明軒樋支持具の他の一例を示す要部拡大正面図。

【図5】従来品を示す正面図。

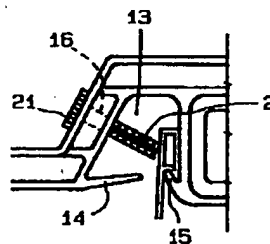
【符号の説明】

- | | |
|---------|---------|
| 1 | 軒樋支持具本体 |
| 11 | 上向き突起 |
| 12 | 取付部 |
| 13 | 軒樋耳保持部 |
| 14、15 | 軒樋耳保持凸片 |
| 2、2a、2b | 小ねじ |
| 3 | 軒樋 |

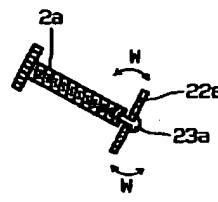
【図1】



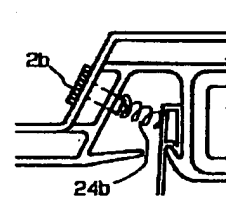
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

